

戯画的人生 微苦笑連続 日暮道孤独

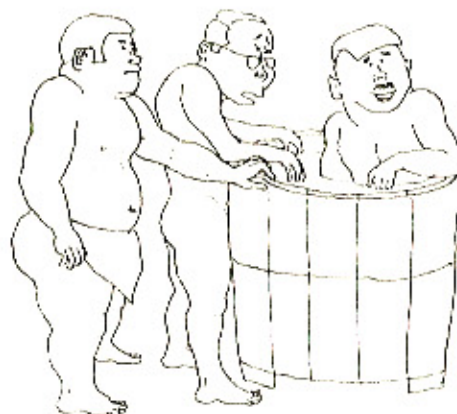
人生の味。有名な五月の歌がある。「いづか知らず、しのび寄る、秋の心、わが胸に」……文部省が実施した学力テストで、30代から50代までの主婦・専業主婦が調査された結果「30代を過ぎれば体力は徐々に低下、38代以降は「下り坂」になる」という結果が、38代（後年40代）以降の人生、夜でもない、終戦直後の動盪期に社会人となっていた異常な状態だ。心理的にも、孤独感がある。



優性飢餓 戦争体制の国民学校で育ち、空襲と食糧難に遭い、いまの40代前後の人は、心理的飢餓と身体的不安定な後遺症がある。飯後ひとっ走りも出来ない、ビール類の飲み過ぎも厭う。その反面、政治・経済・価値観が激変したために、いまだに不信感がつたまま、周囲と隔絶するとツマナイにくい空気感になる。昭和30年代はお説教が嫌い、両者の間に距離は開く。



青春搾取 恋愛期要の額が広すぎ、人生の味は、自身の馬鹿を見つめ季節である。もはや老いが目の前だ。日暮れなのだ。夜更の寒さとは、家庭愛の冷え、友人関係の不信からくる疎外された孤独感ではあるまいか。俺には才能は存在であつた……伴侶と信じていた妻が、実は、青春の搾取者であつたかのように見える黒い幻滅。生命保険の積立てに回され、退職金すら妻の「所有」なのだ。



自己限界 「もみくらや三十、うちちよろ四十、じたばた五十」の現代。孔子の「三十にして立ち四十にして惑わず」の名言は今や全く不刊。昭和二世に突きあがられ、老人の活躍で押えつけられ、年功序列賃金のエスカレーターも信じがたくなったサラリーマン。高度に分業化され、仕事は単純。難しいのは仕事より人間関係。自己の限界がわかっているだけに、うつすら無い、あわれ中年。

矢野鎮夫さん（博多女子大） 前途有望なる教え子を交通事故で亡くし悲しみにしずむ。

中華料理 鹿鳴春
福岡市五・中洲五・三

親の因果 40才の男には、早くて高校生の長男長女がいる。電気紙芝居（テレビ）育ちのガキどもは理解が多い。親の能力を揆点し無能な親を持ち合せた因果をガキはうらやむ。「ちやん」な家に生まれてくれればよかった」と、子供から誘われ、暗に安房も子供に加入する。思春期の子供と更年期の親の同居で発生した家庭惨劇。三男に家なしとは、いまは中年の野郎どものセリフ。



登楼意識 戦前戦後という。本親の経験の有無である。遊部会長の体験者も、公認座主以後に成人した者との間には、性への価値観に差がある。前者には「お世話になります」という親和と客扱いをうけた公明さがある。後者は「お世話」の範囲から、監視めいたズルさがある。先輩が後輩をすっ飛ばしてやっただけ前線は、逆な順いをする。後進派は、うまくいく筈がない。

バー池田
中洲二丁目三番地
1285466

格調高い逸品が豊富に揃った
新作ご婚礼衣裳逸品会
新作ご婚礼家具、調度品奉仕会

ご婚礼貸衣裳は 瀬上貸衣裳部 〒814-28 1086
ハカタ023131

味の素KKの 複合調味料
ハイミー

かるかん
三春堂菓子舗
清水治六
福岡市東中洲五丁目 電話(9)5689
工場・姪ノ浜野間 電話(88)0266